

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI小型成長株ファンド ジェイクール（愛称：jcool）」は2021年12月22日に第16期決算を行いました。

当ファンドは、小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第16期末（2021年12月22日）

基準価額	16,092円
純資産総額	5,268百万円
第16期	
騰落率	△ 1.5%
分配金（税込み）合計	0円

(注1) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBI小型成長株ファンド ジェイクール （愛称：jcool）

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第16期（決算日：2021年12月22日）

作成対象期間（2020年12月23日～2021年12月22日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

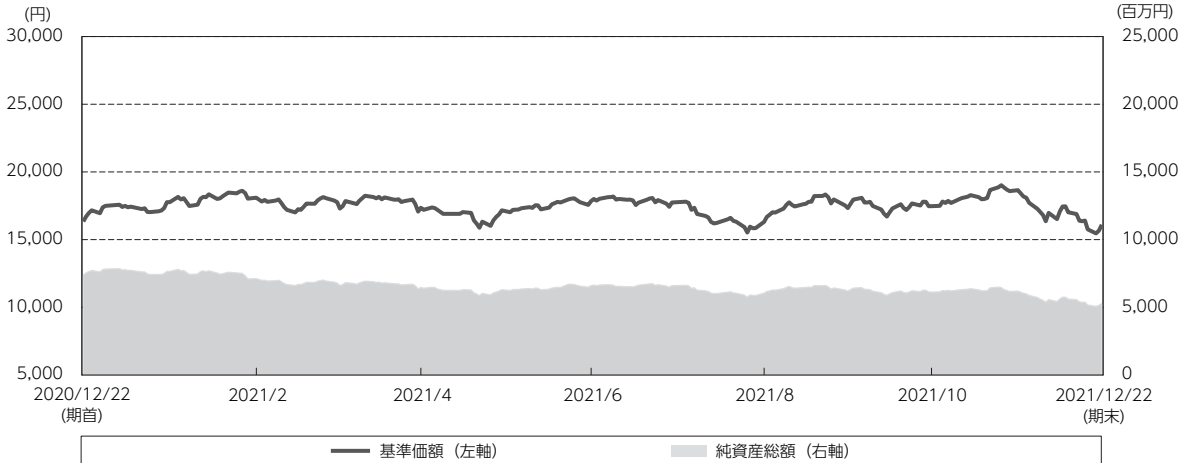
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.com/jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2020年12月23日～2021年12月22日)



期 首：16,336円

期 末：16,092円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰 落 率：△1.5% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、期首16,336円からスタートした後、日本株全体のリスクオンの流れに乗れ、2021年2月17日に18,603円まで上昇しました。しかし、米10年国債利回りの上昇を受けて東証マザーズ指数をはじめとしたグロース株が売られたことで5月上旬にかけて当ファンドも大きく値を下げた展開となりました。その後、米バイデン大統領が初の予算教書演説でインフラ投資等に前向きな姿勢を示したことに加え、米10年国債利回りの上昇に歯止めがかかったことから、6月後半にかけて値を戻す展開になりました。しかし、新型コロナ感染再拡大を受けて、8月中旬に掛けて再び売りに押される展開となりました。

期後半には、菅首相 (当時) の退任表明をきっかけに新政権への期待が高まったことに加え、日本企業の良好な決算発表や、新型コロナ感染拡大のピークアウトが見られたことなどから、上昇基調に転じ、当ファンドは2021年11月16日に期中最高値となる19,020円を付けました。しかしその後は、部品の供給不足が意識される中、南アフリカで新型コロナの変異種 (オミクロン株) が発見されたこと、IPO社数の大幅な増加を受けた換金売りに伴う需給の悪化が生じたことなどから、中小型株を中心に大きな売り圧力が掛かり、当ファンドは12月20日に期中最安値の15,461円を付け、結局16,092円で期末を迎えることとなりました。

1 口当たりの費用明細

(2020年12月23日~2021年12月22日)

項 目	当期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	327	1.870	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(185)	(1.056)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(129)	(0.737)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(13)	(0.077)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	24	0.136	(b)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株 式)	(24)	(0.136)	※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.008	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	352	2.014	
期中の平均基準価額は、17,505円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

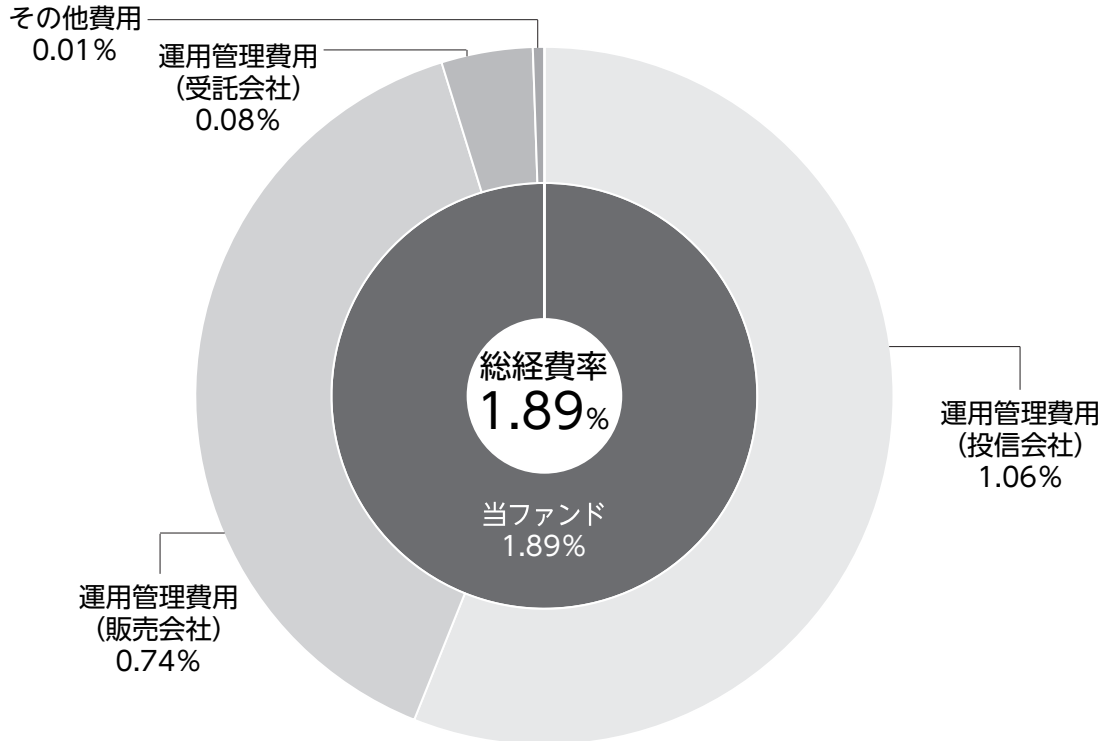
(注4) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.89%です。



(注1) 上記費用は、1口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

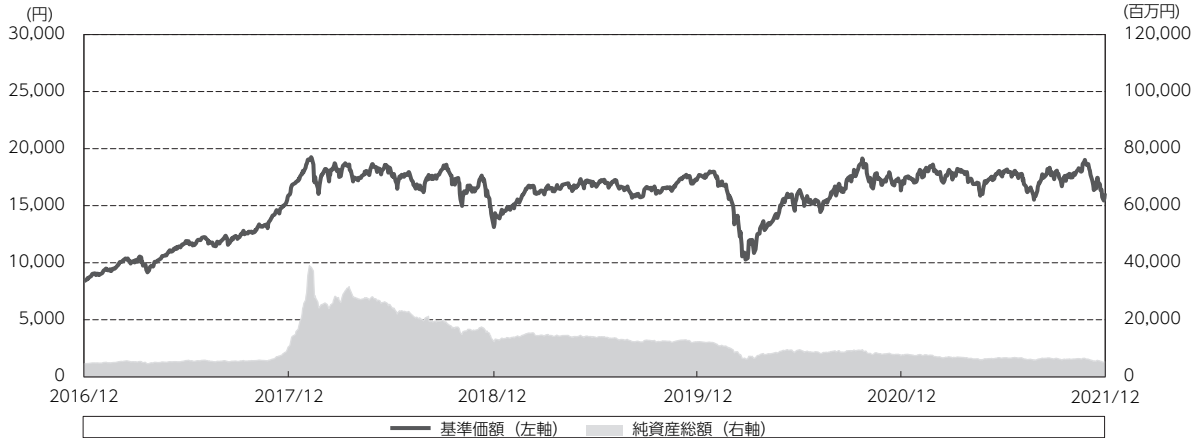
(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年12月22日～2021年12月22日)



(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

	2016年12月22日 決算日	2017年12月22日 決算日	2018年12月25日 決算日	2019年12月23日 決算日	2020年12月22日 決算日	2021年12月22日 決算日
基準価額 (円)	8,390	15,889	13,130	17,246	16,336	16,092
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	89.4	△17.4	31.3	△5.3	△1.5
純資産総額 (百万円)	4,563	10,408	12,348	12,207	7,375	5,268

(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

投資環境

(2020年12月23日~2021年12月22日)

当期の国内株式は、2020年11月の米大統領選通過に伴う政治的不透明感の後退を手掛かりとしたリスクオンの流れが継続し、2021年4月頃まで上昇基調を継続しました。しかしその後は、海外比でのワクチン接種の遅れや新型コロナ感染拡大などが嫌気されたことで、夏場にかけて上値の重い展開を余儀なくされました。

9月に入ると菅首相(当時)の退陣表明を機に日本株は急伸。新型コロナの新規感染者の減少やワクチン接種の進展が見られていたという地合いの良さも加わり、9月中旬にかけて大幅に上昇し、TOPIXは約31年ぶりの高値を付けました。もっとも、9月下旬には中国不動産問題、米国株の下落、岸田新政権への期待の後退などを理由に概ね8月下旬の水準まで下落し、結果として、9月の日本株は"行ってこい"の展開となりました。

10月中旬からは日米企業が良好な決算を発表したこと、日本で緊急事態宣言が解除され経済活動が正常化に向かい始めたことなどが株価を押し上げ、11月中旬に掛けて戻りを試す展開となりました。しかしその後、南アフリカで新型コロナの変異種(オミクロン株)が発見され、感染拡大とそれに伴う経済活動の停滞リスクが意識されると、売りに押される展開となりました。12月以降は、①同変異種に従来のワクチンが有効である可能性、②従来の変異種よりも弱毒である可能性一などが報じられ、戻りを試す展開となりました。ただし、12月中旬以降は、FRB(米連邦準備制度理事会)をはじめとした各国中央銀行による金融政策決定会合でタカ派的なスタンスが示されたことを受け、不安定な相場展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年12月23日～2021年12月22日)

<当ファンド>

主要投資対象である小型成長株・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用いたしました。

<小型成長株・マザーファンド>

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言をもとに投資判断を行い、運用いたしました。投資を行った銘柄は、わが国の株式のうち、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」です。原則、公開後3年以内の企業を投資対象としています。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、成長性・収益性・安全性・革新性・株価水準等を総合的に評価判断し、おおむね50銘柄を組み入れ、逐次銘柄見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、1銘柄で最も組み入比率が高いものでも4%程度としました。

なお、株式の組み入比率に関しては、おおむね95%以上を維持しました。期末の株式組み入比率は97.1%となっております。



※組み入比率はマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年12月23日～2021年12月22日)

当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数を採用していません。

分配金

(2020年12月23日～2021年12月22日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1口当たり、税込み)

項 目	第16期
	2020年12月23日～ 2021年12月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,092

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き小型成長株・マザーファンドを高位に組入れる方針で運用してまいります。

<小型成長株・マザーファンド>

引き続きエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の投資助言に基づき、革新的高成長が期待される企業へ投資を行い、信託財産の成長を目指します。

なお、当該マザーファンドに投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメントでは、以下のようにコメントをしています。

当期（2020年12月23日～2021年12月22日）の日本株式市場は、依然として新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右される環境が続きましたが、徐々にコロナ後の経済再開に目が向けられるようになりました。また、経済の活力の源泉であり、当ファンドが投資対象として注目しているIPO（新規株式公開）はこれまでを上回る水準で増加しており、2021年は123社が新規上場を果たす見込みです。こうした中、これまでと変わらないペースで企業との個別面談調査を実施、革新的な高成長企業を厳選し続けてきました。

11月上旬までに、3月決算期企業の上期決算が出揃いました。全体的には好調と言える内容で、約7割の企業が通期の増益を、5割以上がコロナ前を上回る利益水準への回復を見込んでいます。コロナ禍を機に経営効率が高まったこと、厳しい業界も底打ちしてきたこと、ITや新しいライフスタイル関連などで伸びる分野が現れたことなどが背景にあります。

一方で、原油価格の高騰や円安の進行、人件費の上昇などで物価上昇に対する関心が高まっています。いくつかの要因は今後改善に向かうでしょうが、一定期間はコスト上昇圧力が高い状況が続くことが想定されます。日々の面談の中でもその対応策について伺っていますが、今後値上げを検討している企業が増えてきた印象で、これまで課題であった供給過剰によるデフレ圧力はかなり解消されてくるのではないのでしょうか。これにより、企業収益を確保して、設備投資拡大や雇用拡大・賃金上昇につなげることで経済の拡大が期待されます。もちろん、企業によって置かれている状況は異なります。高いシェアが確保できているのか、他社との差別化ができているのか、値上げの手段をどうするかなどを見極めて、自らの競争力を活かせる企業に注目していきます。

お知らせ

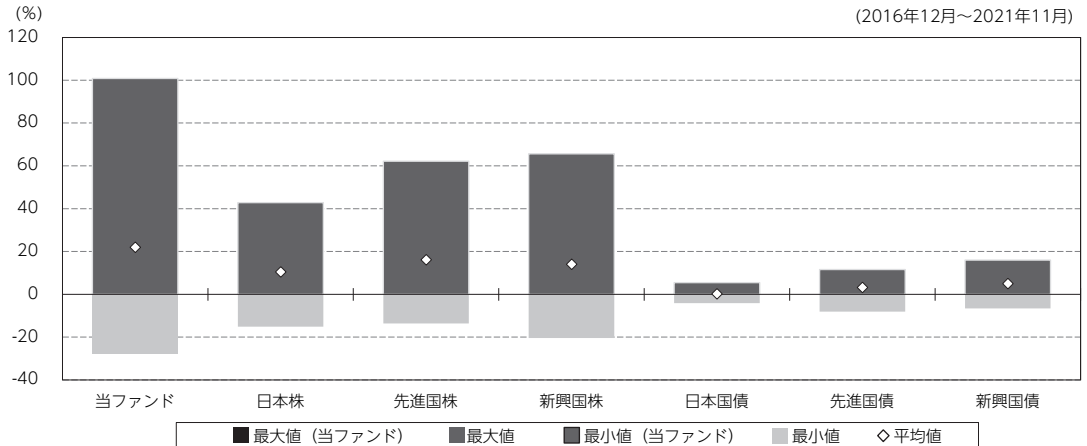
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	原則として無期限（クローズド期間はあります）	
運用方針	小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド（ベビーファンド）	小型成長株・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド（ベビーファンド）	主として、小型成長株・マザーファンド受益証券に投資し、信託財産の積極的な成長をめざして運用を行います。 なお、マザーファンド受益証券の組入れ比率は、原則として高位を維持します。
	マザーファンド	わが国証券取引所上場株式のうち中小型株を主要対象とし、投資を行います。 また、株式の投資に際しては、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」を厳選して分散投資します。 なお、外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年1回（毎年12月22日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は経費控除後の利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配対象額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	100.8	42.8	62.2	65.6	5.5	11.6	16.0
最小値	△ 27.8	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 4.1	△ 8.1	△ 6.6
平均値	22.0	10.4	16.1	14.0	0.2	3.2	5.0

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2016年12月から2021年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な各資産クラスの指数》

- 日本株…Morningstar 日本株式指数
- 先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)
- 新興国株…Morningstar 新興国株式指数
- 日本国債…Morningstar 日本国債指数
- 先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)
- 新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年12月22日現在)

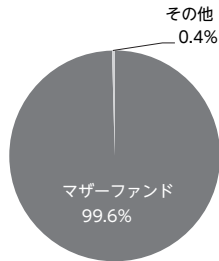
○組入上位ファンド

銘柄名	第16期末
	%
小型成長株・マザーファンド	99.6
組入銘柄数	1銘柄

(注1) 組入比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

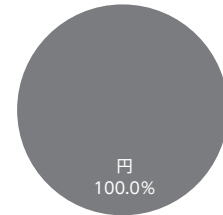
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項目	第16期末
	2021年12月22日
純資産総額	5,268,116,932円
受益権総口数	327,373口
1口当たり基準価額	16,092円

(注) 期中における追加設定元本額は297,250,000円、同解約元本額は1,538,150,000円です。

組入上位ファンドの概要

小型成長株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2020年12月23日～2021年12月22日)



【1万口当たりの費用明細】

(2020年12月23日～2021年12月22日)

項目	当 期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	31円 (31)	0.136% (0.136)
合 計	31	0.136

期中の平均基準価額は、22,665円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2021年12月22日現在)

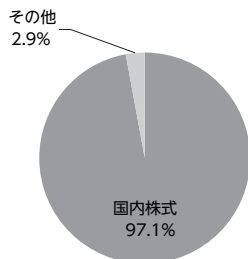
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率(%)
1	NexTone	サービス業	円	日本	3.9%
2	プレミアグループ	その他金融業	円	日本	3.8
3	インソース	サービス業	円	日本	3.8
4	テンポイノベーション	不動産業	円	日本	3.6
5	GMOフィナンシャルゲート	情報・通信業	円	日本	3.4
6	JMDC	情報・通信業	円	日本	3.3
7	マネジメントソリューションズ	サービス業	円	日本	3.3
8	システムサポート	情報・通信業	円	日本	3.3
9	Speee	情報・通信業	円	日本	3.2
10	イントラスト	その他金融業	円	日本	3.2
組入銘柄数				57銘柄	

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

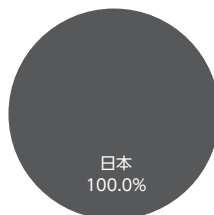
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

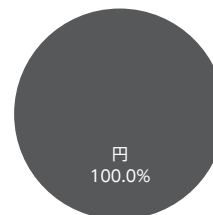
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年12月22日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

〈各指数の概要〉

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含む Morningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。